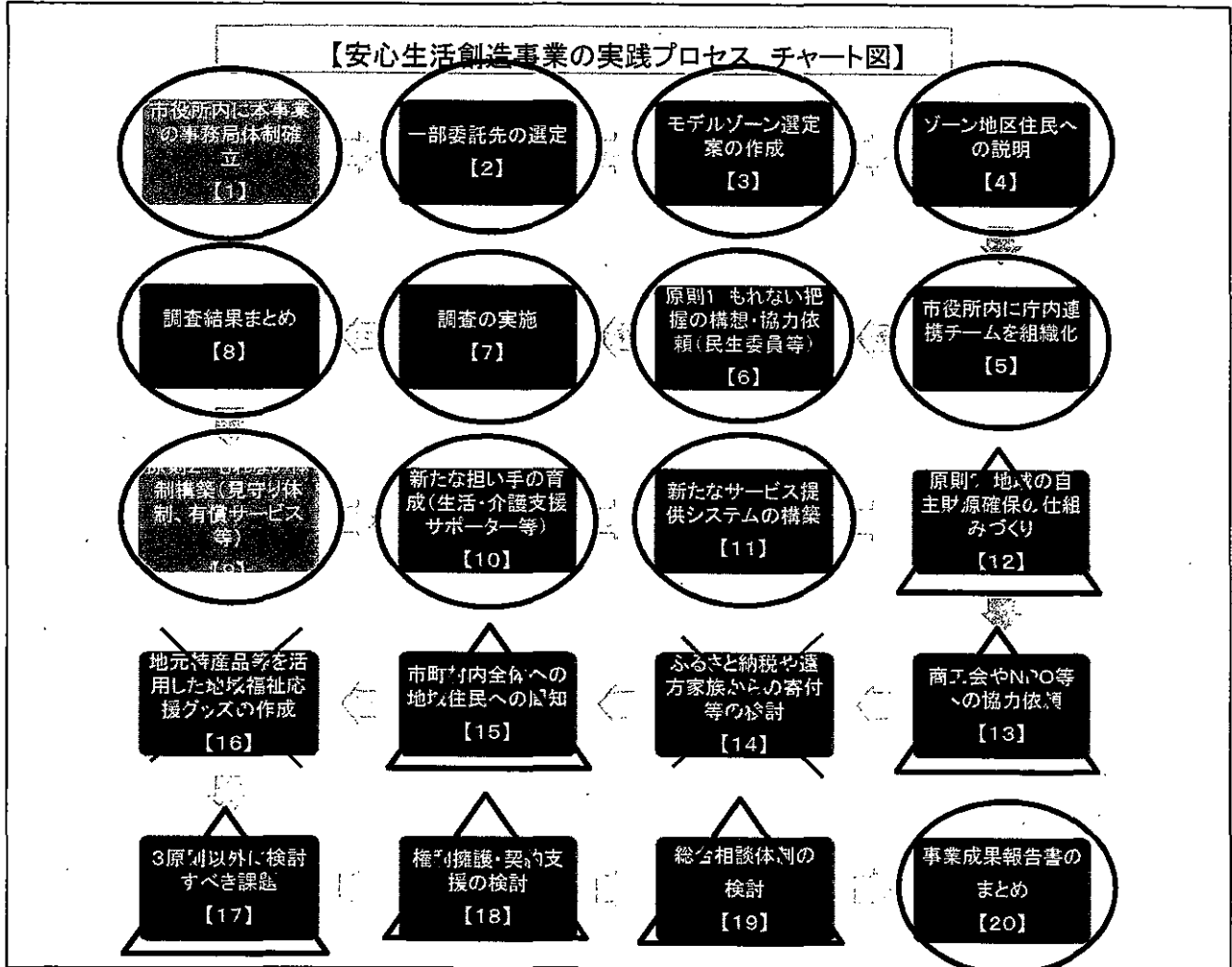


H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	栃木県	市町村名	大田原市	所属ブロック	関東
人口(H24.7.1現在)	世帯数(H24.7.1現在)	高齢化率(H24.7.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
74,544	27,192	22.36	32,364		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
12・13・14	△	バザーや募金箱の設置などで自主財源確保に取り組んでいるが、活動経費の十分な財源確保には至っていない。
14・16	×	検討中だが、具体的な案が見つからない。
17・18・19	△	支援が必要な事例が出た際はケア会議等を開催し支援につなげているが、全体的な仕組みとしての権利擁護・契約支援・総合相談体制ができてはいない。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

自治会単位で見守り活動の組織を作ること、近隣住民によるつながり力を復活させながら見守り活動を推進した。
訪問などを行う事業所など協力機関との連携をすることで、地域だけでなく社会全体で見守る体制づくりを推進した。
国際医療福祉大学の学生ボランティアと連携し、世代間交流を行った。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

地域で積極的に取り組みたいという声があり、リーダーシップのとれる人がいる地域。地区社会福祉協議会ごとに選定し、選定した地域で成果が出れば、徐々に他の地域にも理解が広がり拡大していく。

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

関係機関連絡会議を開催。事業の共通理解を図る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

対象者に日常生活の困りごとや不安を調査、一般住民に福祉に対する意識調査をすることで、住民がどのような支援ができるのかを検討することができる。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

自治会単位で支え合いマップ作りをすることで、普段なかなか気付かなかった近所のつながりを視覚的に理解することができ、住民の見守り意識の向上につながる。

カ. 個人情報取り扱い方

見守りをする側から誓約書、見守り対象者からは同意書をもらい、見守り活動以外には漏らさない取り組みをする。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

隊員研修を実施し、見守り活動への意識を高める。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

地域の方を主任(コーディネーター)として配置することで、地域からの声を迅速に反映させるとともに、行政と地域の調整役としての役割を果たしてもらっている。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

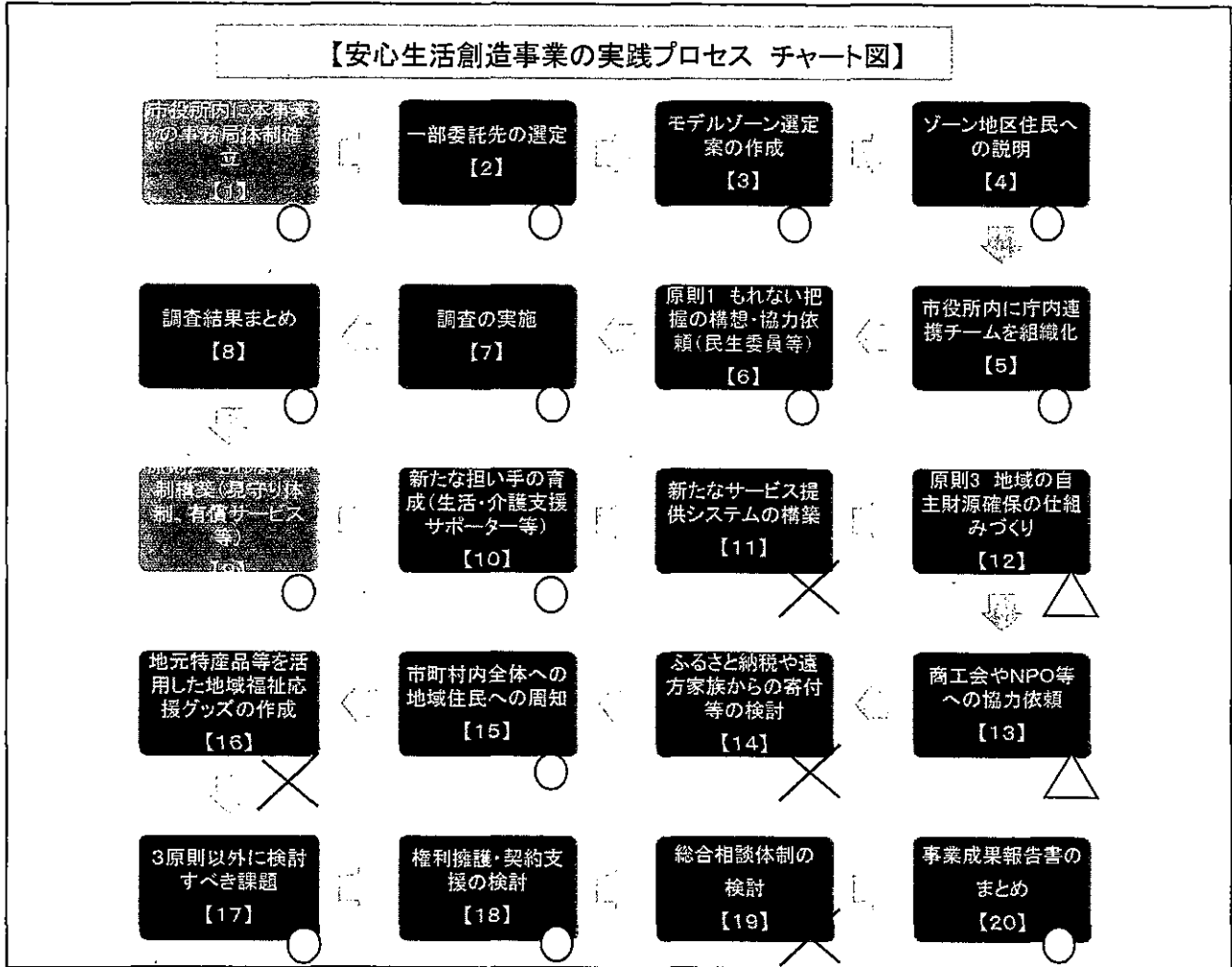
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	福岡県	市町村名	春日市	所属ブロック	九州
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)		高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
110,781	45,143		16.97	110,781	

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
11	×	考えていない 既存のサービス体制の充実を目指す
12	△	歳末助け合い募金を自治会の活動費として支出した。フリーマーケット、バザーで財源確保を行っているが、事業を支えるほどの金額に満たない。
13	△	生活応援のお店登録事業を実施しているが、利用者が少ない。
14	×	考えていない
16	×	考えていない
19	×	考えていない

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

本市においては、住民に対し「災害時」を切り口に事業を進めていくと理解が得やすいというのがわかったので、自治会では災害時での支援のしくみをつくりながら日頃の見守りのしくみづくりも同時に進め、マップづくり・地域支え合いカードづくりをおこなった。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

本市は市域が狭いので、全体をゾーンにした。

イ. 部局内の連携の仕方

地域福祉担当、高齢者支援担当、障がい担当がそれぞれ3課にまたがっているので、連携しながら取り組んだ。
取りまとめは1課(地域福祉担当)で行った。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

本事業を社会福祉協議会に委託。
関係機関へは、定例会等で説明会を行った。
民間事業者へは、市内を訪問する企業に住民の異変に気づいたら連絡いただくよう文書で依頼した。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

住民アンケートは、春日市では行っていない。
取組地区の対象者には、ニーズ把握のための「困りごと聞き取り票」を用いている。(対象者宅に人の把握で訪問した際にニーズ把握もできるようにしている。)

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

・基盤対象者台帳作成の仕方
手上げ方式と同意方式を推進
手上げ方式の場合、自治会で回覧、自治会報等で取組みの周知と登録募集を行っているが、登録希望者が少ない。
同意方式は、対象となる範囲を決めて訪問(例:75歳以上独居・気になる世帯)対象者に対し、自治会や、民生委員、福祉推進委員(地域ボランティア)等で手分けして訪問し、登録を推進していく同意方式を取り入れている。
・マップ作成の仕方
社会福祉協議会から、拡大地図を準備
取組み者が地図を囲み、登録者、支援者(決まってから)、自治会関係者、避難場所、危険箇所などを地図に落としながら、確認し合って作成する方法を取っている。訪問対象範囲となった世帯の情報(住所、氏名、年齢)を民生委員から提供してもらう。

カ. 個人情報の取り扱い方

個人情報についてのガイドラインを作成し、自治会役員や福祉推進員には誓約書をとった。
また、カードやマップは鍵のかかるキャビネットなどで保管し、複写をしない、持ち出さないなどの取り決めをつかった。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

一定の養成研修を実施しているわけではないが、取組みが行われている期間中に安心生活創造事業の全容、特に地域支援ネットワークの取組みの具体的方法の説明をしている。
その中で自治会が「地域支え合いカード」を促進していく場合、取組者にカード内容の考え方について理解してもらい訪問している。
社会福祉協議会がカードについての考え方のマニュアルを作成している。
訪問時の注意事項なども説明している。

ク. 自主財源確保のためのアイデア 社協にて、年2回フリーマーケットを開催したり、いきいきフェスタ春日の食品バザーに出店し、自主財源の確保に努めている。
ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	兵庫県	市町村名	宝塚市	所属ブロック	近畿
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
234,019	100,464	23.05	16,876		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
6	△	ニーズの傾向の把握にとどまり、支援が必要な個人の把握までできなかった地域がある
14・16	×	社協会費、共同募金を公募、申請型の助成金に充当するという従来の仕組みを活用した

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

- ・事業者による見守り支援
- ・制度の狭間への支援
- ・白瀬川両岸集合住宅協議会(モデル地区)における見守り支え合いの仕組みづくり

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

モデル地区だけではなく、地域の実情に合わせて全市ですすめていった。

イ. 部局内の連携の仕方

安心生活創造事業を当社協の全部署が関わる一貫性のある事業であるため、「安全で安心な楽しいまちづくり事業」として組織内の本事業に対する理解を促すとともに、組織体制の改革に着手した。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

民間事業者に見守りの協力依頼を行った。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

ニーズだけでなく、「支援できること」も項目にいった。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

地域の実情に合わせて進めていっている。

カ. 個人情報の取り扱い方

マップを作成した地域は手上げ方式で実施している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

生活・介護支援サポーター養成事業等の委託・補助事業を活用して研修・講座を実施。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

- ・募金等の公募配分事業について、安心生活創造事業の推進を図るための誘導策やテーマ設定を図る(未着手)
- ・イメージキャラクターを活用した募金の活性化や収益事業(未着手)。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	北海道	市町村名	札幌市	所属ブロック	
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)		高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
1,921,069	992,307		21.5		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません) また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
7	△	孤立リスクを正確につかみ、効率的にその後の見守りにつなげる調査方法について、現場である区役所とワーキングを行って検討中。また、システム化による正確性・効率性の向上も今後検討する予定。
9	△	民生委員による見守り活動は開始しているが、孤立リスクは高くても見守りを希望しない世帯もあり、そのような世帯に対する定期的な安否確認を行う手法を検討中。
15	△	寄付等により障がい者を地域で支え合う機運を高めるためには、まず障がい者に対する理解を促進することが重要と考えており、その手法について検討中。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

障がい者が安心して地域で生活できる環境を整備するためには、障がい者に対する理解促進や、定期的な安否確認をいかに効果的・効率的に行うかが重要と考えている。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容 ○

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他 ◎

効果的・効率的な安否確認の方法

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

本市では「市民が孤立しない地域づくりや地域福祉ネットワークの構築」を重要課題の一つにしており、今回、安心生活創造事業を活用させていただく機会を頂戴したので、高い事業効果が得られるように努めたい。また、今回は障がい者に対する事業であるが、高齢者等も含めた地域全体としての孤立防止対策の推進に向けて、ご指導いただきたい。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

【第6分科会】

テーマ：個人情報の取扱い方

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	北海道	市町村名	東川町	所属ブロック	北海道・東北
人口(H24.9.30 現在)	世帯数(H24.9.30 現在)	高齢化率(H24.9.30 現在)		ゾーン人口	
(人)	(世帯)	(%)		(人)	
7,883	3,375	28.99		7,883	

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
12	×	自主財源の確保については、地域福祉推進協議会及び推進本部で再三検討したが、名案はなく今後の課題となっている。
14	△	本町では、ふるさと納税制度を活用して「ひがしかわ株主制度」を創設し、町の応援住民を募集して各種事業の資金として活用しているが、現在のところ地域福祉部門には活用していないため、今後自主財源としての検討課題としたい。
16	△	上記応援住民には、町の特産品である大雪山の雪解け水で製造「大雪旭岳源水」や、本年商標登録となった「東川米」を応援住民グッズとして贈呈しているため、今後地域福祉部門にも反映させることで検討したい。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

本事業で導入した地域福祉支援システムにより、行政の保健福祉部門、地域福祉包括センター、社会福祉協議会等の関係機関で要支援者個々の情報を共有できるよう、重点的に要支援者等の情報を収集し入力業務に取り組んだ。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

本町の中心市街地には役場、診療所、幼児センター、小中学校、高校、商店が集中しており、全町を網羅する町営バス、デマンドタクシーの運行や福祉有償運送業務を行っているため、全町区域を1ゾーンとした。

イ. 部局内の連携の仕方

本事業を実施するに当たり、地域福祉推進本部(本部長・副町長)を保健福祉課に設置し、本部事務局長を中心に保健福祉課長、社会福祉室長、保健指導室長、地域包括支援センター長、社会福祉協議会事務局長を事務局員とし、連携を図って事業に当たっている。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

本事業を実施するに当たり、町の警察・郵便局・JA・商工会・社会福祉協議会・民生児童委員協議会・消防団・日赤奉仕団・消費者協会・各自治振興会等の各関係機関で組織する地域福祉推進協議会(会長・町長)を設置し、連携を図って事業に当たっている。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

地域福祉に対する住民ニーズの把握のため、町内在住で65歳以上の方無作為で300人を対象に、地域との関わりと地域に対する考え方(3問)、地域福祉に対する考え方と参加の意向(2問)、生活課題とその解決方法(6問)の内容でアンケート調査を実施した。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

基盤支援対象者台帳には、全ての高齢者の「世帯区分」、「介護度」、「障がい者手帳交付状況」、「公的サービス利用状況」、「一般福祉サービス利用状況」等を記載しており、マップにはそれぞれの高齢者宅の地図情報を掲載している。

カ. 個人情報の取り扱い方

本事業を実施するには、個人情報を取り扱うことから情報管理部局との連携が必要であり、基盤支援を必要としている高齢者等にサービスを提供する上で、サービスを受ける側の個人情報を提供するための同意と、サービスを行う側の守秘義務が必要である。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

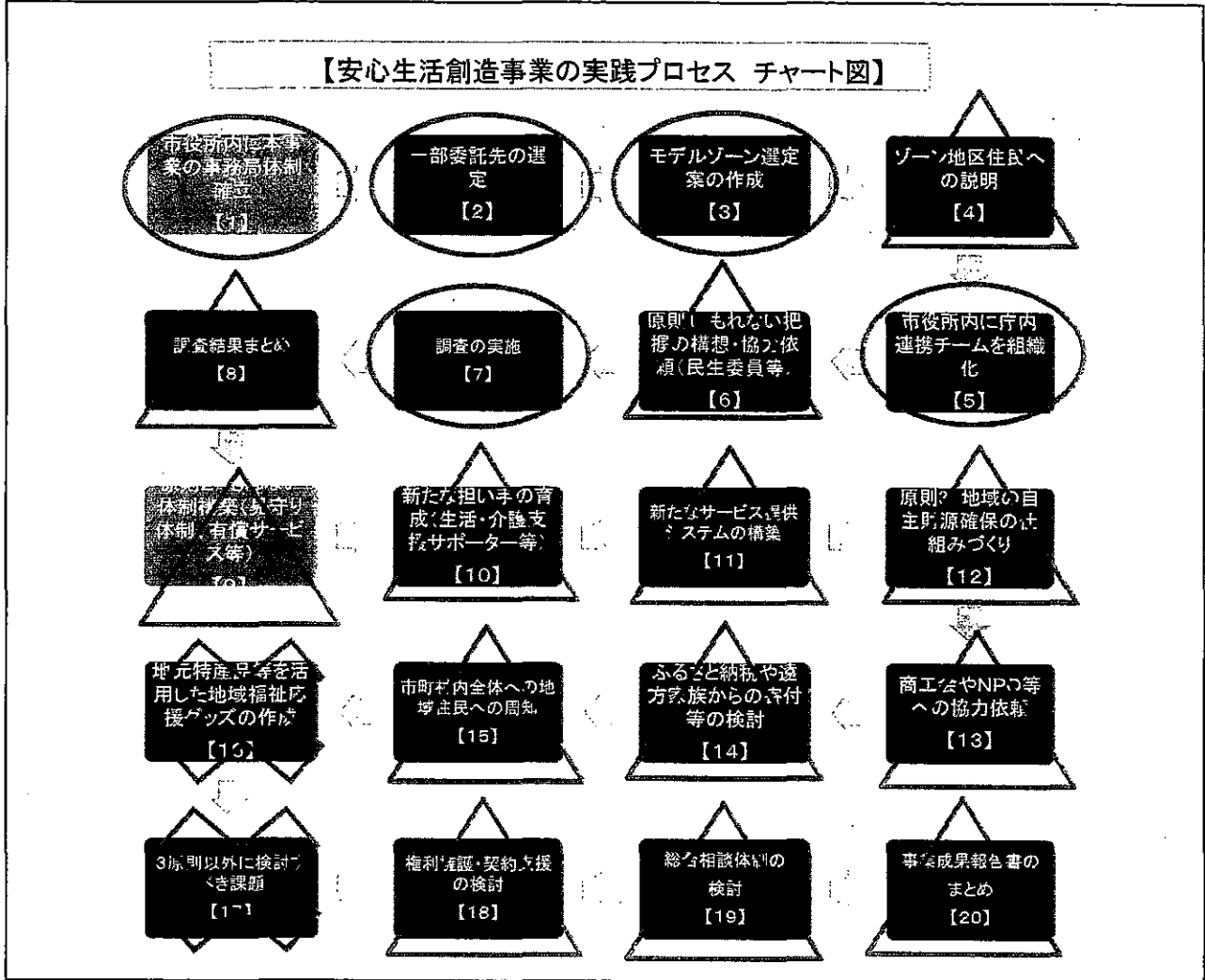
※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	高知県	市町村名	中土佐町	所属ブロック	
人口(H24.3.31 現在)	世帯数(H24.3.31 現在)	高齢化率(H24.3.31 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
7,887	3,629	38.1	①1465人②1280人 ③317人④4969人		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
4	△	4つの地域を設定して4つとも同時進行をしているため、全地域でもれなく説明会の実施に至っていない。また地域福祉計画・活動計画と連動して進行させているので、説明はその内容に重点が置かれている。
6	△	各地域で実態把握の構想、手段が違っている。①つながる安心カードを通じた把握②つながりマップ作りを通じた把握③訪問活動や男のチカラみせますプロジェクトを通じた把握④訪問活動や地域住民どおしの繋がりを通じた把握である。それぞれの地域ごとに進捗のスピードは違っている。
8	△	調査実施に合わせ、まとめの作業を順次行っている。

9	△	4つの地域ごとに進行している。①「つながる安心カード」の普及活動をおして体制構築を目指した取り組み。②つながりマップ作りを通して浮かび上がったニーズがカバーされる体制構築。③④訪問活動から気づいた「気になる人」を見守り、生活支援ができる体制構築を目標にしている。既存の仕組み等をベースに体制を強化していく方向である。
10	△	①地域活動ができる人材発見、育成のための活動に4つの地域で取り組む。 ②将来の新たな担い手の育成のために、ジュニアボランティア育成に取り組む計画。
11	△	9(体制構築)のための動きと連動させ協議する予定。
12	△	地域福祉計画の内容には盛り込まれていない要素のため、この項目のみ取り出して検討をしていく予定。
13	△	12(自主財源)のプロセスについての協議の過程で検討をする予定。
14	△	12(自主財源)のプロセスについての協議の過程で検討をする予定。
15	△	4つの地域ごとの独自の財源を検討する方向であるため、周知方法も地域に合わせて検討していく。
16	×	現在のところ検討課題として取り上げられていない。
17	×	三原則以外の検討課題に気づいていない。
18	△	平成25年度から町社協が日常生活援助サービスの実施主体になるので、それに合わせて権利擁護、契約支援の検討も行うが、現在は職員の研修段階である。
19	△	中土佐型地域包括支援ネットワークシステムづくりに取り組む方向である。現在はまだ協議段階である。
20	△	地域福祉計画・活動計画の進行管理にあわせ安心生活創造事業の記録も作成し、事業成果まともに活用できるように記録シート内容を工夫している。(日本福祉大学の協力を得ている)

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

- ①地域福祉計画・活動計画で設定した町内の4つの地域ごとに取り組む地域活動を通して実態・(ニーズ)把握を行い、基盤支援を必要とする人がもれなくカバーされる体制を作る。
②地域福祉計画・地域福祉活動計画の進行管理と連動した活動を展開する。
③安心生活創造事業の実施によりできた地域の仕組みを事業終了後も継続、強化できる体制を作る。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ、その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

Ⓐ 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

Ⓕ 個人情報の取り扱い方

Ⓖ 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

Ⓗ 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

会議の日程はできるだけ早く情報提供をお願いいたします。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

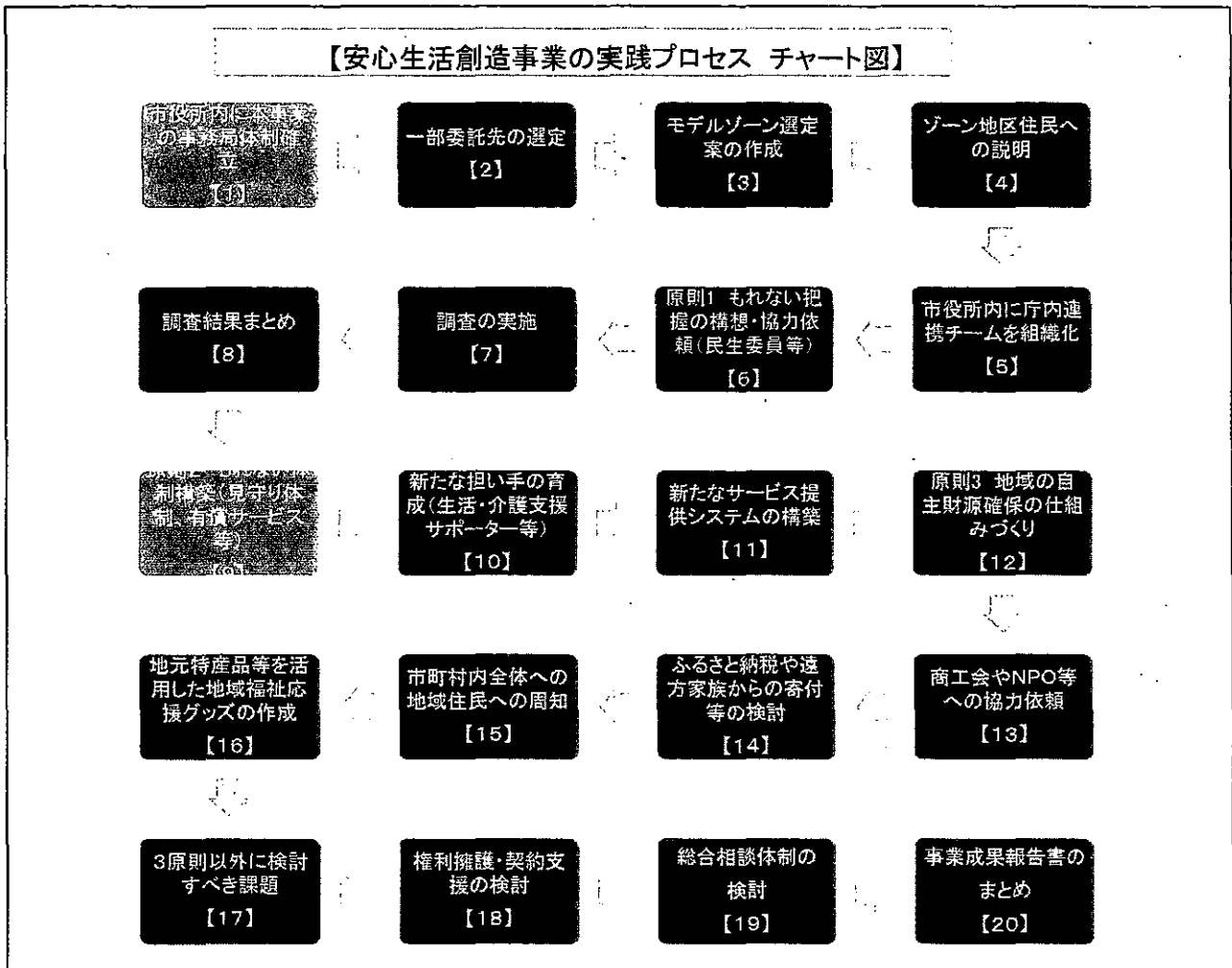
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	山形県	市町村名	飯豊町	所属ブロック	北海道・東北
人口(H 24. 4. 1現在)	世帯数(H 24. 4. 1 現在)	高齢化率(H 24. 4. 1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
8,027	2,377	31.2	8,027		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
4	×	全町を対象としたために周知をしなかった。
5	×	役所内に横断的に対応チームを設置までには至らなかった。(16)の民芸品製作事業では関係部署と連携を取りながら実施。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

- ①一人暮らし高齢者等の多層的な見守り支援体制整備を第一に取り組んだ。地域でのワークショップの結果より近所での見守りに加え、民生委員や業者(商店・郵便配達他)・機器・訪問員(社協ヘルパー)による見守り体制ができている。
- ②民生委員から地域で「心配な高齢者等」の情報提供シートが作成され、本人・民生委員・協力員・別居家族・行政・社協が共通したシートを持つ仕組みができた。
- ③一人暮らし高齢者が安全に住まいことができる支援(住宅点検・学習会)をNPOと協働実施。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

豪雪地帯にあり、見守りのほかに買い物支援の検討も行なうに当たり、人口規模も小さく一地区を選定するのではなく全体の中で課題を集約することが必要であったために全町で実施。

イ. 部局内の連携の仕方

福祉課内の対応で終結。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

運営委員会を立上げ、地区長・民生委員・食生活改善員・NPO他町会各団体の多様な参加の中で協議を進めることができた。また、視察を行い共通の認識を深めることができた。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

一人暮らし用・夫婦世帯用・家族同居者用の3種を作成し実施。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

アンケート実施後のリストアップ・民生委員からの情報シート・包括での総合相談等から把握した方を民生委員と協議し台帳整備を行なった。

カ. 個人情報の取り扱い方

同意書により対応。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

見守り訪問は社協ヘルパーに委託。訪問用シートを作成し、毎月の訪問時のチェック項目を訪問時確認する。その結果を毎月包括と情報交換会で報告・協議を行なう。介護認定者以外の高齢者のリスクマネジメントの研修を行い、生活の介護予防という視点での活動支援を行なった。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

共同募金付き飲料の自販機を設置し対応した。年間約4万円(10台)程度の金額となった。高齢者の手わざから生み出す製品からの還元も検討。

ケ. その他

※ このアンケートは人口規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会の詳細につきましては、追ってお知らせいたします。

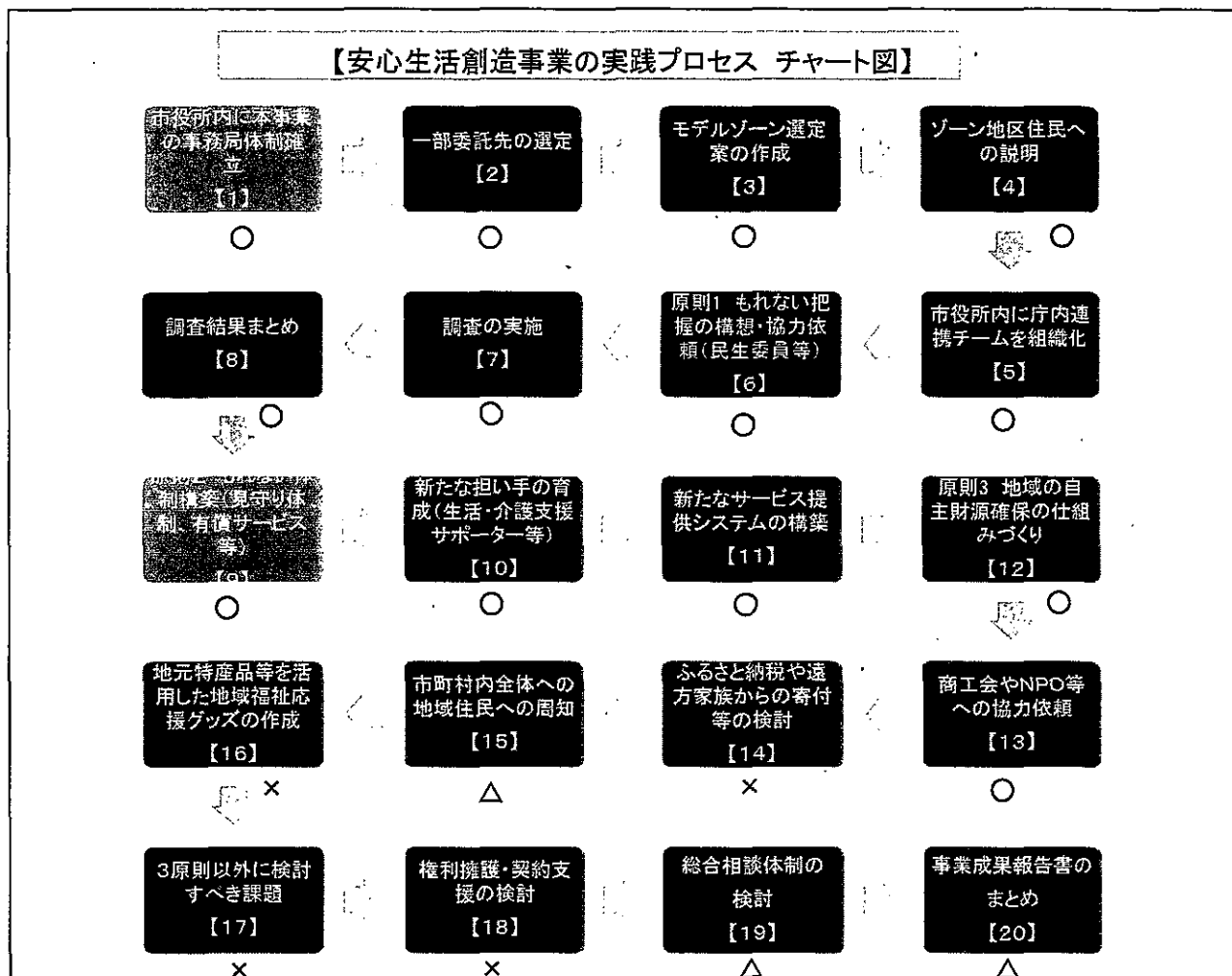
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	岡山県	市町村名	美咲町	所属ブロック	
人口(H24.10.1 現在)	世帯数(H 24.10 .1 現在)	高齢化率(H 24.10 .1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
15873	6351	35.5	15873		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
14	×	ホームページやブログ(美咲町社会福祉協議会)では広報しているが実際には寄付はなかった。
15	△	町広報紙、社協だより、のぼり旗で広報活動をしたが、地域住民への周知については、広く周知できたかどうかは判断が難しい。
16	×	キャラクターグッズとしてはステッカーを作成したが、地元特産品等を活用した地域福祉応援グッズについては作成していない。
17	×	高齢者の移動支援について検討はしてきているが、地域の交通事情との関係で実行できていない。

18	×	専門職や研修等との連携体制はできているが、事業に組み込んだでの取組みはできていない。
19	△	関係機関の連携については、常に考え会議等を行い事業を進めてきたが、総合相談体制の構築まではできていない。
20	△	現在概要版を再構成し作成中である。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

買物支援について地元商店との連携、買い物サロンの拡大。生活支援サポーターのリーダー養成、スキルアップ研修、見守りの定着化、事例検討研修、小地域ケア会議に各地域のサポーターが参加し、普段の見守りの地域情報を提供し、地域での活動をさらに充実し、地域のバックアップ体制をつくる。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

美咲町は三町合併し、約人口16000人となり旧三町それぞれ地域の課題を持つ。中山間部、限界集落地域が抱える課題に対して生活支援、買い物支援対策が急務となっているという地域特性をもとに

イ. 部局内の連携の仕方

高齢者等安心生活推進協議会を行政、社協、商工会が連携し立ち上げ、運営を推進するとともに、安心事業定例会議(行政、商工会、社協)支え合いのまちづくり企画会議(行政、社協)等の定期的会議の開催。企画書、計画書などの提案会議や事業関連の啓発グッズの紹介など、協働で開発し、評価、効果の

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

高齢者等安心生活推進協議会については関係団体の長を委員として開催し、関係機関との連携を図るとともに、安心事業定例会議(行政、商工会、社協)支え合いのまちづくり企画会議等(行政、社協)等の定期的会議の開催。民間事業所とは、商工会の協力の下会議を開催して連携を深めた。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

生活支援、買い物支援の要支援対象及び家族向け「生活支援サービスにつなげる内容となる項目(ex. 困っていること、頻度、人数、支援時間、料金制についてなど、対象者の現状を分析できる項目＝身体的障がい、精神的障がい、環境問題、相談場所、相談者の有無、具体的な内容を記入できるように支援など)既存支援の知名度、相談場所の有無など。サービス支援者向け(自分の把握している地域範囲、活動の意思、活動においての要望)

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

地域の見守りを行っている関係機関、民生児童委員、愛育委員、栄養委員、老人クラブ、ボランティア団体等の見守りネットワークの体制を構築し、情報の共有を図り、台帳の整備を行う。同時にマップを利用し、作成者が視覚的に状況を皆で把握できるようにする。要見守り者の地域で近所、知人などの支援者や、施設等本人との距離間、その他の援助者の割り出しなど、マップ上に記入し、関係線を入れる。関係度合や、困難、孤立、限界的な環境、要防災地域などの推測や判断を行う。

カ. 個人情報の取り扱い方

行政各担当課とは個人情報保護条例に基づいた申請手続きを行うとともに、事業実施関係機関とは情報化と情報の誓約、個人情報の管理の誓約を結び、サポーター養成機関と指導機関との誓約を締結し、地域や個人においても、情報の取り扱い方法など協議し、明確にしておく

キ. 訪問員の養成ノウハウ

養成研修の開催①基礎研修20時間(事業の説明、介護保険、その他制度等の説明、サポーターの役割、介護の基礎などカリキュラムを工夫する。②スキルアップ研修(リーダー育成、介護予防の活動を自性を持ち率先して活動できる人材を育成。リーダーが今後の養成研修の講師となれるように育成する。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

キャラクターグッズの作成販売、自販機設置、切手、会員制の導入、インターネットでふるさと納税等の寄付呼びかけ

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。